

第 116 回エイズ動向委員会
委員長コメント

【平成 20 年第 4 四半期】

【概要】

1. 今回の報告期間は平成 20 年 9 月 29 日～平成 20 年 12 月 28 日までの約 3 か月
2. 新規 HIV 感染者報告数は 292 件（前回報告 294 件、前年同時期 277 件）で、過去 2 位。うち男性 275 件、女性 17 件で、男性は前年同時期（264 件）より増加し、女性は前回（12 件）および前年同時期（13 件）より増加した。
3. 新規 AIDS 患者報告数は 110 件（前回報告 119 件、前年同時期 95 件）で、過去 4 位。うち男性 104 件、女性 6 件で、男性は前回と同数で前年同時期（84 件）より増加。女性は前回（15 件）及び前年同時期（11 件）より減少。
4. HIV 感染者と AIDS 患者を合わせた新規報告数は 402 件で過去 2 位である。

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規 HIV 感染者：
 同性間性的接触によるものが 211 件（全 HIV 感染者報告数の約 72%）と最多
 そのうち 202 件が日本国籍男性
 異性間性的接触によるものが 57 件（全 HIV 感染者報告数の約 20%）
 そのうち男性 43 件、女性 14 件
 年齢別では、特に 20～30 代が多いが、40 代以上も前回及び前年同時期より増加した。
2. 新規 AIDS 患者：
 同性間性的接触によるものが 51 件（全 AIDS 患者報告数の約 46%）
 異性間性的接触によるものが 38 件（全 AIDS 患者報告数の約 35%）
 そのうち男性 33 件、女性 5 件
 年齢別では、特に 30 代以上に多い

【検査・相談件数の概況（平成 20 年 10 月～12 月）】

1. 保健所における HIV 抗体検査件数は 41,238 件、自治体が実施する保健所以外の検査件数は 8,538 件、保健所等における相談件数は 63,426 件
 前年同時期に比べ、抗体検査数・相談件数ともに増加

【献血の概況（平成 20 年 1 月から 12 月）】

1. 献血件数（速報値）は 5,077,238 件（前年 4,939,550 件）
2. そのうち HIV 抗体・核酸増幅検査陽性件数は 107 件（前年 102 件）
 10 万件当たりの陽性件数は 2.107 件（前年 2.065 件）前年より増加

【平成20年 年間報告（速報値）】

【概要】

1. 今回の報告期間は平成19年12月31日から平成20年12月28日までの約1年
2. 新規HIV感染者は1,113件で過去最高
3. 新規AIDS患者は432件で過去最高
4. 合計は1,545件（一日あたり約4.2件）で過去最高
平成19年（速報値）HIV感染者1048件、AIDS患者400件、合計1,448件。それまでの最高
平成19年（確定値）HIV感染者1082件、AIDS患者418件、合計1,500件。それまでの最高

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
同性間性的接触によるものが772件（全HIV感染者報告数の約69%）と最多
異性間性的接触によるものが219件（全HIV感染者報告数の約20%）
年齢別では、特に20～30代が多いが、40代以上も前年より増加した。
2. 新規AIDS患者：
同性間性的接触によるものが192件（全AIDS患者報告数の約44%）
異性間性的接触によるものが146件（全AIDS患者報告数の約34%）
年齢別では、特に40代以上に多く、50歳以上で大幅に増加

【検査・相談件数の概況（平成20年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は、177,156件（前年153,816件）で過去最高。
平成19年よりも約2万3千件増加。
2. 相談件数は230,091件（前年214,347件）で平成19年より約1万6千件増加

【まとめ】

1. 感染経路別に見ると、男性同性間性的接触がさらに増加し、年齢分布は拡大傾向にある。こうした動向を踏まえ予防普及啓発を重点的に強化していく必要がある。
2. 国民はHIV・AIDSについての理解を深め、身近な問題として積極的に予防に努めるべきである。早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、HIV抗体検査・相談の機会を積極的に利用していただきたい。
3. 各自治体においては、さらに利用者の利便性（夜間・休日・迅速検査）に配慮した検査・相談事業を推進し、予防に関する普及啓発に努めることが重要であり、HIV感染の早期発見による適切な治療の促進と感染拡大の抑制に努める必要がある。